

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3570600621		
法人名	有限会社 創		
事業所名	グループホーム ニコニコ創		
所在地	防府市上右田2458-1		
自己評価作成日	平成26年7月30日	評価結果市町受理日	平成26年12月9日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成26年8月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは自然の美しさの囲いの中にあります。見学に来られた方が口をそろえて「すごく景色がいいところですね!」と驚かれるほどです。佐波川の土手沿いは散歩コースとなっており、行き交う地域の人たちと挨拶を交わしたり、自然に咲ききれいな花を見ながらの散歩は、心と体をリフレッシュするには最適で、散歩後は「気持ちよかったです!」との声が多く聞かれます。また、生活されるにおいては、ご本人、ご家族より過去の人生歴、生活歴をよくお聞きして、その方らしさを失うことなく最適な生活を送られ、日々幸せを感じられるよう、職員一同、誠心誠意努力しています。一人一人、昔から馴染みある親しみを感じられる呼び名で呼び出し、家族的温もりを営んでおります。また、自由意志を尊重し、時間がかかっても、できるだけ本人が達成感を味わってもらう事を基本にしています。そして、ご家族に手紙を書いてもらい、それをみんなで共有し、家族の絆をいつも感じられるようにしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用開始時に本人や家族に聞いて「私の願い」「してほしい支援」などの作文を作成されたり、センター方式を活用して利用者の基本情報を把握されている他、利用者それぞれのキーワードとなる言葉を設定され、利用者を担当する職員はキーワードに着眼されて日常の関わりの中での言葉や行動を介護記録に詳しく記録され、利用者の思いの把握に努めておられます。それぞれの利用者がどのように生きてこられたかを理解され、利用者の子供の頃から大人になるまでの懐かしい写真と好きな曲をバックミュージックに入れてDVDを制作され、利用者や職員みんなで視聴されて楽しんでおられます。詩吟や朗読、歌、料理、畑づくりなど一人ひとりの利用者が活躍できる場面づくりをして、楽しみごとや気分転換の支援をされています。毎月、利用者の日々の様子や言葉を手書きで家族へ送付されており、家族との絆を深め関係継続につながる支援をされています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、活き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「この町でいまを生きる」という事業所理念を掲示し、内部新人研修でその説明と理解に努め、日々のミーティングの中でも共有し、その人の幸せとは何か、理念をもとに考え実践につなげるようにしている。	理念を事業所内に掲示し、利用者と職員は「この街で生きる」歌を毎日歌っている。職員は利用者のいまを考え思いの把握に努めるなど、理念の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	自治会に加入し、職員は地域の掃除や新年会に参加し、地域の方々の声を聞くようにしている。また、教会のシスターに訪問して頂き、話しをしてもらったりしている。	自治会に加入し、職員は清掃活動や新年会に参加している。近所の人が事業所の花壇の草取りや花の植え付けなどをしてくれたり、野菜の差し入れがある他、散歩中に挨拶を交わしたり、利用者が事業所のそばの広場でのペタンクを見学して、一緒にお茶を飲むなど日常的に交流している。専門学生の実習の受け入れやボランティア(滑舌、日本舞踊等)の訪問がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や民生委員さん等を通し、認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。また、職員が認知症介護のプロとして身近な人たちに良きアドバイスができるよう指導している。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	第三者の立場からは何を求められているのか、求められていることに関して現状はどうか、ということを中心に改善に取り組んでいる。	前回の自己評価を基に管理者と職員が話し合い、変更した項目を書き換えている。評価結果を受けて目標達成計画を立て、毎月看護師の指導で応急手当や初期対応の訓練を行ったり、運営推進会議で災害時の地域の協力体制について話し合っている。内部研修で「身体拘束をしないケアの実践」など、評価項目をテーマにあげ理解に努めているが、全職員が評価の意義を理解し、自己評価に取り組んでいるとは言えない。	・全職員での評価の意義の理解と自己評価への取り組み

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者家族、自治会長、民生委員、市職員、地域包括センター職員、経営者、事業所職員のメンバーで、利用状況、事故、苦情報告や認知症の理解、地域の状況など話し合い、出された意見はサービスの向上に活かしている。	2ヶ月に1回開催し、利用状況、現状報告、行事報告、研修報告などを行っている。新規の自治会長や民生委員に認知症の理解と支援について説明し、事業所を知ってもらうよう努めている。事業所だよりに会議の様子の掲載を始めるなど取り組んでいる。	・メンバーの拡大
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	電話や出向いての介護保険などの相談、事故報告など情報交換している。また、市から高齢相談窓口のヒントが欲しいなど市から相談があったときなども積極的に協力し関係を築いている。	市担当課とは電話や出向いて相談し助言を得ている他、市グループホーム連絡会に参加して協力関係を築いている。地域包括支援センターとは運営推進会議時に情報交換をし、連携している	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	指針、マニュアルがあり、内部研修などで身体拘束について学び、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関は施錠しておらず、自由に出入りできる。徘徊ある場合も、ご本人が納得されるまで一緒に歩くなどし対応している。	内部研修で身体拘束をしないケアについて学び、全職員が理解している。スピーチロックについて気になるところは職員と話し合い、管理者がアドバイスをしている。日中、玄関には施錠はせず、利用者が外に出たい様子を察知したら、言葉をかけ一緒に出かけるなど工夫している。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員の目につくところに高齢者虐待の定義をはり、防止に努めている。また、職員がストレスをためることがないように、日頃からしっかり話し合っている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	すでに、過去に1名、成年後見人制度を利用していた利用者があり、実践で学んだ。今現在も1名利用している方がおられ支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、契約前に契約書を家に持ち帰ってもらい、熟読してもらうようにしている。そして、契約の際、説明と同時に疑問点などないか確認している。解約の時も、家族と話し合いを十分にしている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等の意見等はこちらにすぐに話してもらえる関係が築かれている(契約時より何でも話していただけるようにしており、こちらも話している)。契約書にも外部機関を明示しており、契約時にこちらに話せないときは遠慮なく電話してくださいと話している。	相談、苦情の受付体制や処理手続きについて契約時に家族に説明をしている。1年に1回家族へのアンケートを行っている他、面会時や電話、認定更新時に家族の意見や要望を聞いている。月1回手紙や写真で利用者の日頃の様子を家族に知ってもらい、意見を言いやすい関係を作っている。ケアに関する意見は職員間で検討して対応している。運営に関するまでの意見はでていない。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者と職員は密にいつも話しをしており、職員も積極的に提案してくる。当然、いいものであれば、反映させている。休日希望も毎月尋ね、職員の急な休みも他の職員の協力により柔軟に対応できるような環境にある。	管理者は日常の業務の中で職員が意見や提案を聞く機会を設けている。全体レクリエーションの時間を利用して、ユニットごとに業務に関する話し合いをしている。食事やレクリエーションの時間、業務ごとのチェックリストの作成など、提案を運営に反映している。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修、中堅研修などの参加はもちろん、家族への手紙、ケアプラン作成など経験に応じて職員それぞれに役割をもってやってもらっている。外部研修に参加した場合、研修報告書で共有できるようにしている。	外部研修は情報を職員に伝え、希望や段階に応じて参加の機会を提供し、2回参加している。内部研修は1年の基本テーマを決め、同じ内容を月に数回行って、全職員が月1回の研修に参加できるようにしている。新人は1年をかけて必要な知識や技術を身につけるように、運営者と看護師が指導している。	・外部研修参加の機会の確保

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	山口県宅老所・グループホーム連絡会が開催する勉強会、その他研修で知り合った同業者との交流、小規模多機能連絡協議会の定期的な会議、研修参加などで情報交換し、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ここで、よりよい生活をしてもらえるよう管理者、全職員、家族も含め努力をしている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族からの話しはもちろん、利用予定者とも事前に面接をし、その方がどのような状態(進んだ認知症等)でも話しを聴き、受けとめるようにしている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他の施設の足がかりで利用される方もいるが、それはそれで、今、そして今後を見据えて支援、対応している。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に歌い、一緒に料理し、手紙を読んだり、話したり喜怒哀楽を共にしている。また、畑に何か植える時などは逆にアドバイスしてもらいなど、利用者と介護者というよりも、まず人と人として支えあう関係を築いている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者あつての家族という事で、定期的な面会、家族が他県の時は電話、手紙で利用者を支えてもらうようにしている。また、お盆やお正月は、家族と過ごしていただけるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	教会訪問や神社参拝、逆に神父さんが訪問され、今は植木の手入れもして下さっている。家族協力のもと、通い続けた病院への通院、外泊など、本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	家族や親戚の人、友人、知人の来訪がある他、手紙や電話での交流を支援している。思い出の写真で作成したDVDや来訪時に撮った写真を繰り返し見て楽しんでいる。馴染みの教会のバザーに出かけたり、シスターの訪問がある。家族の協力を得て、家族旅行や墓参り、法事への参加、自宅の草抜きをするなど、馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援をしている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	やはり、合う合わないあるが、それも把握し、また、利用者個々の能力、性格も把握し、孤立することなく、円滑にいくよう努めている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、関わりを必要とする利用者、家族には入所時と同じように接している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ひとりひとりが発する言葉を大切にしている。また、基本情報、療養、支援、家族、生活史シートを活用し、一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。常に本人本位に検討している。	利用開始時に本人や家族に聞いて「私の願い」「してほしい支援」などの作文を作成したり、センター方式を活用し思いや意向を把握している。利用者それぞれのキーワードを設定し、利用者を担当する職員がそれに着眼した言葉や行動を介護記録に記入して、思いや意向の把握に努めている。困難な場合は家族から聞いた情報や利用者の表情や行動から推し量り、本人本位に検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式の一部を使用し、入所前に詳しく家族に書いてもらい、また、家族から利用者へ手紙を書いてもらったり、本人からでもできるかぎり聞き出すようにしている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ひとりひとりの能力、性格、心身状態を管理者、全職員が把握し、それに応じた役割を与えている。自ら夕方になると草取りや水まきをされる利用者いるが、自発的なものは任せるようにしている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回モニタリングを行い、現状の把握に努めている。また、月1回手紙で家族に現状を伝えている。カンファレンスを行う際は、家族から要望を聞き、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	本人や家族、主治医の意見を参考にして、職員間で話し合っって計画作成担当者が介護計画を作成している。1か月に1回担当者会議を開催し、モニタリングを実施し、1年に1回介護計画の見直しを行い、状態に変化があればその都度見直しを行い、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録を始め、体調の変化により報告を密にしないといけなくなれば、専用ノートを作成し、事細かに情報を共有するようにしている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院、美容院、買い物の付き添い、宗教など、本人、家族の要望に応じて柔軟な対応をしている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月2回の滑舌ボランティアでの発声練習、看護学校の実習による触れ合い、運営推進会議メンバーとの食事会、大平山へのドライブなど本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族が決めた病院がある時はそちらの、当ホームのかかりつけ医の場合は、身体状況により月2回の訪問診療、通院となり、必要に応じた情報をかかりつけ医に提供し適切な医療を受けられるように支援している。	協力医療機関の他、本人や家族の希望する医療機関をかかりつけ医とし、受診に必要な情報を提供し、家族の協力を得て受診の支援をしている。協力医療機関の月2回の訪問診療があり、看護記録に記録し、連絡帳で職員間で情報を共有している。緊急時には家族やかかりつけ医と相談して、適切な医療が受けられるよう支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師1名、准看護師が2名職員にいる。また、何かあればかかりつけ医に電話し、指示してもらえるようになっており、訪問看護センターにも相談に応じてもらっている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際にはサマリーを提出し、情報交換できるようにしている。入院中も通常の見舞い、時に利用者で見舞いに行ったりして、その際に状況を把握、情報交換するようにしている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	指針があり、利用開始時に家族に説明している。医療機関を選択する人には、かかりつけ医や家族と話し合い、医療機関へつなげられるよう支援している。ターミナルを希望する利用者、家族については、家族の協力、医師との連携など段階的に話し合いながら方針を共有しチームで支援に取り組んでいる。	事業所でできる対応を契約時に家族に説明し、同意を得ている。実際に重度化した場合は、家族やかかりつけ医、訪問看護師と話し合っている他、終末期介護記録に本人の言葉などを詳しく記録して職員間で話し合い、方針を共有して支援に取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	ヒヤリハット、事故報告書、連絡帳により、話し合いを行い、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。応急手当、初期対応の訓練は毎月ペアを組み行っている。	事例が生じた場合は、その場の職員がヒヤリハット、事故報告書に記録し、その日の職員で対応策を検討し閲覧している。月1回の職員間の話し合いで一人ひとりの対応を検討し、介護申し送り書で対応策を確認し、共有し、一人ひとりに応じた事故防止に取り組んでいる。職員がペアを組み、毎月、心肺蘇生や回復体位の取り方の訓練を行っているが、他の訓練について十分とはいえない。	・全職員対応の応急手当や初期対応の定期的な訓練の充実

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署への通報訓練に避難訓練、消火器訓練を毎年実施している。災害発生時は、市より連絡が入る体制となっている。	年2回消防署の協力を得て、通報訓練、消火訓練、避難訓練を行っている。避難訓練には利用者も参加している。運営推進会議で検討しているが、地域との協力体制を築いているとはいえない。	・地域との協力体制の構築
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報管理も雇用契約時に誓約書にサインしてもらっている。また、指針、マニュアルがあり、研修、勉強会を実施し、一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	内部研修で学び、全職員は人格の尊重やプライバシーの確保について理解し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。気になる場合は管理者や職員で話し合っている。個人情報の取り扱いについては、職員に周知し徹底するよう努めている。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段から話しを良く聞き、自己決定できるように働きかけている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床、就寝含め、ひとりひとりのペースを大切にしている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	乳液等使用する人は乳液を提供、爪を自分で切りたい人は自分で、鼻毛が気になる人には鼻毛切りを提供、好きな色のカーテンをつけるなどし、その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材は外部委託したものを利用して、三食とも事業所で、利用者と職員一緒に野菜を切る、盛り付けなどできることをやってもらっている。片付けも食器洗い、食器拭きなど適材適所で会話を楽しみながらしている。	外部委託した食材と差し入れの野菜や収穫した野菜(芋、ミニトマト、スイカなど)を利用して、三食とも事業所で食事づくりをしている。朝食の玄米パンはパン焼き機で手づくりし、おかずは二つのユニットが協力して調理をしている。利用者は野菜切りや盛り付け、配膳など出来ることを職員と一緒にしている。利用者と職員は同じテーブルで同じものを食べながら、会話を楽しんでいる。庭でのお茶、お弁当を持っての外出、餅つき、かき氷やスイートポテト、家族の協力を得ての外出など、食事が楽しみなものになるよう支援をしている。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の水分摂取量の把握をはじめ、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは、ひとりひとりの状態を把握し、入れ歯の人は夜間ポリデントを使用するなどし、徹底している。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	ひとりひとりに細かい排泄チェック表があり、それによりパターンを知り、誘導すべき人は誘導している。	排泄チェック表に記録し、一人ひとりのパターンを把握し、声かけや誘導をしてトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給の徹底、決まった時間の排便誘導、毎日の運動、かかりつけ医への報告連携など、個々に応じた予防に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は隔日14時から16時で、職員が多い安全な時間帯に入浴をするよう支援している。毎日入りたいという人やその他希望があればそれに添う支援をしている。	入浴は毎日14時から16時の間可能で、2日に1回は入浴できるよう支援している。利用者の状態や状況に合わせて足浴やシャワー浴、清拭など行っている。入浴時に会話がはずむように言葉かけをしている。入浴したくない人には無理強いせず、他の利用者から声をかけてもらうなどの工夫をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食後横になりたい人は横になって過ごされるし、お昼寝したい人はお昼寝している。その人の性格、認知症の症状等考慮して支援している。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	理解している。また、糖尿病の利用者も数名おり、変化が見られる時にはかかりつけ医に連絡し情報提供、こちらの意見も述べ指示を仰いでいる。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	歌が好きな人にはマイクを持たせ、毎日般若心経を唱えていた人は般若心経を、洗濯物を干したりたたんだり、畑での芋掘り、しめ縄作り、敬老会、誕生日会、ドライブなど、張り合い、喜びのある日々を過ごせるよう支援している。	足あげ体操、タオル体操、嚙下体操、心の体操、七夕飾り、誕生日会、クリスマス会、リース作り、門松飾り、しめ縄作り、詩吟、一人ひとりマイクで発表、歌、朗読、ことわざ遊び、など、畑作り、水やり、洗濯物たたみなど、一人ひとりの活躍できる場面づくりや楽しみごとの支援をしている。DVDに職員が利用者の子供の頃からの成長過程の写真を音楽付きで制作し、それを見て楽しむ支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、大平山へのドライブ、教会訪問、神社参拝、家族の協力を得ての夕食、外泊、買い物など外出の支援をしている。	大平山のつつじ、向島の桜、天神様の初詣、フリーマーケットでの買い物、農業大学祭での買い物、店の福引、小学校の運動会見物、協会のバザー、近くの土手ぞいの散歩など日常に出かける支援をしている。家族の協力を得て、墓参りや実家の訪問、馴染みの温泉に行くなどの支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	環境が良いところで、季節、自然の光、風を感じることができる。自然の景色が五感に働きかけるようになっている。玄関には花を置くなどし、居心地良い空間を提供している。	玄関に季節の花や今まで事業所を訪れた人々の写真を飾っている。リビングの壁には利用者の似顔絵や歌、詩、利用者のつぶやいた言葉、心にとまった言葉などを掲示し、皆で読んだり歌ったりできる親しみやすい空間にしている。明るさ、温度、湿度に配慮し、居心地よく過ごせる工夫をしている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者同士は食事の席を隣り合わせにしたり、独りが好きな人は、角席にしたり、思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に位牌を置かれている方、使い慣れた机、椅子を置かれている方、家族の写真を飾っている方、亡き連れ合いの写真を飾っている方などおられる。本人が安心して、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	机、椅子、日用品、写真、ぬいぐるみ、位牌など持ちこみ、利用者が居心地よく過ごせるように支援している。居室にベッドを二つ置き、気の合う利用者同士で過ごせるようにしたり、家族がいつでも泊まることのできるようにベッドを置き、安心して生活できるよう工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ひとりで車いす移動されても、手押し車で移動されても、広々とした通路を確保し、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。		

2. 目標達成計画

事業所名 グループホームニコニコ創

作成日：平成 26年 12月 5日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	36	地域との協力体制の構築	災害に備え、地域との協力体制を築く	運営推進会議で地域の災害対策の話しを継続し、地域の取り組みに同調しながら、地域との協力体制を構築していく	
2	35	応急手当や初期対応の定期的な訓練の充実	現在、心肺蘇生、回復体位、ハイムリック法、背部叩打法を毎月訓練しているが、骨折時の初期対応など必要と思われるものを随時取り込んでいく	看護師と今まで通り計画を立てつつ、必要と思われる初期対応を毎月の訓練に取り入れて行く	
3	14	外部研修参加の機会の確保	全スタッフ、1年に1回は何かしらの外部研修へ参加してもらう	スタッフの参加意欲を優先しつつも、そのスタッフに必要と思われる研修があれば、意欲に関係なく参加してもらえるようにする	
4	5	メンバーの拡大	運営推進会議のメンバーが増える	よく来られる他の事業所の介護支援専門員やボランティアの方など、まずは深く関わりのある方に声をかけ、メンバーの拡大をはかる	
5	4	全職員での評価の意義の理解と自己評価への取り組み	現在、一部評価項目を内部研修に取り入れているが、更に取り入れることで評価の意義の理解を高める。	内部研修に評価項目を取り入れることを継続、拡大し評価項目を浸透させながら、外部評価の存在、意義をまずは得られるようにする	

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加すること。